

東京松坂屋上野店で 崇城大の洋画展開催

20〜26日

崇城大芸術学部的美術学科洋画コースによるグループ展「崇城の洋画―ard ito(アルディート)―」と、学部長で日展特別会員の熊谷有展教授(57)の個展「ard ito α」が26日、東京の松坂屋上野店で同時開催される。展覧会名はイタリア語で「たゞまなく前進する」という意味で、「日々の研さんの成果を見てほしい」と来場を呼びかけている。

スとして東京で展覧会を開くのは初の試みで、「それぞれが主役」をテーマに全員で話し合いを重ね、制作を進めてきた。身近な風景をモチーフにした柳田也寿志助教(41)の心象画をはじめ、カメラのレンズや真ちゅう、ろうを用いた下城賢一准教授(51)のミクストメディアなど多彩な34点を並べる。個展に臨む熊谷教授は、ここ3年で描いた人物画や風景画など約30点を出品する。ライフワークという母子像は、点描法で描いた柔らかな雰囲気の特徴。シルエットのみに2人の表情をうかがうことはできず、どのように感じるかは

見る人の心に委ねられる。グループ展にも参加する熊谷教授は「二つの展覧会は影響し合っている。それぞれの表現の可能性を感じてもらいたい」と話している。

(澤本麻里子)



崇城大芸術学部美術学科洋画コースのグループ展に参加する院生たちと個展を開く熊谷有展教授(左から3人目)=8日、熊本市西区